

年齢に関係ない保育を

年齢に関係ない保育を目指し、大東市北条の認可保育所「大東わかば保育園」は、0〜5歳児が一体となって取り組む運動や劇遊びを融合した保育カリキュラムを実践している。山本良一園長(73)は、独自の取り組みを続ける思いをつづった書籍を自费出版した。

こそだて ✂ おおさが

大東の保育園長 書籍出版



保育の書籍を自费出版した大東わかば保育園の山本良一園長 大東市

タイトルは「大切なことはみんな保育園で学ぶ よい保育の場を求めて―PART II」。開園から現在までの歩みを振

り返すとともに、年齢の異なる子供たちが合同で運動や劇遊びに取り組み意義を紹介している。

保育園のある市北部地区は、昭和40年代に都市開発が進み、子供の数が増加。近隣にも多くの保育園が新設された。

しかし、その後は住民の高齢化が進み、子育て世帯も減少。保育園にとっては子供の確保が難しい「激戦区」となった。定員割れとなる保育園もあらわれる中、大東わかば保育園は長年、定員を超える子供を集めている。

その人気の秘密は何

か。ひとつは毎年秋の運動会で披露している、全学年の園児たちがひとつの物語に沿って演じる野外劇だ。

昨年は、園児ら約90人が、さまざまな生き物の役として登場。日常の保育で取り組んでいるアスレチックやマットの運

動、組体操などの動きを応用し、北極を探検する物語を演じた。保護者らも見守る中、演技時間は2時間近くにも及んだ。

山本園長は「言葉やストーリーを理解する力を伸ばすとともに、年齢の壁を超えて子供たちの絆も強まる効果がある。劇を見た外部の保育関係者も、高度な内容に驚かれることが多い」と話す。

また、大東わかば保育園では、登園した園児全員が毎朝、園庭で遊ぶ時間を設けている。保育士が見守る中、年齢の異

なる子供たちが互いの体力などに配慮して交流を深めている。その狙いを、山本園長は「子供たちがのびのびと関わり合える昔ながらの保育こそ、子供の育ちには良い環境」と説明する。

一般に、運動会などの行事は年齢別に分けて実施する保育所も少なくないが、大東わかば保育園では、異年齢の子供たちの交流にこだわりをみせる。そつした子供重視の保育を好

み、卒業後に親となった後、自分の子供を通わせるケースも多いという。

山本園長は「地域に受け入れられる保育園として、今後子供が楽しく成長できる保育を提

供したい」としている。

おおさが

書籍に関する問い合わせは出版社「フォーラム・A」(806・6313・1390)。(木ノ下めぐみ)